

一拾六艘

咄師

一貳拾五艘

木津

一拾貳艘

賀茂

一參拾壹艘

笠置

一拾貳艘

瓶原

右上荷舟、御城米者、壹艘ニ八石五斗積、賣人荷物者、川筋水次第ニ而拾五六石目迄積申候、此舟、木津川、桂川、筋淀、伏見、宇治近邊之小働いたし候、淺川、枝川、過書船、荷物重ク、舟通リ兼候時、上荷をはね候而、積上せ候ニ付、上荷船と申候由、大坂江者、往行不罷成候、

〔和漢船用集舟名數江湖川船〕五四ッ乗。勢州桑名の小船也、三四人乗べし、攝州の通舟、平田舟に類して、すこし違あり、

〔倭訓栞伊中編二〕いなぶね。稻を積たる船也、最上川によみならへり、

〔古今和歌集東歌二十〕みちのくうた

もがみ川のぼればくだるいな舟のいなにはあらずこの月ばかり

〔古今和歌集打聽二十〕稻舟むかしは年貢を稻にて納めしかば、是を其國の御倉へ藏むる時、多くの舟につみて、此川をのぼせしをいへり、

〔源順集〕秋

もがみ河いな舟の身は通はずておりのぼり猶さはぐあしがも

〔倭訓栞前編十一〕まばぶね。柴を積たる船なり

〔和漢船用集舟名數海船〕柴船。諸國にあり、小船中船也、攝州に來る舟、紀州、土佐、阿波、淡路、日向等の舟多し、松の葉、青柴など、瓦の薪に積來れり、